



# 津南ロータリークラブ週報

第2630地区 ROTARY CLUB OF TSU-SOUTH



例会日/毎火曜日  
 例会場/津都ホテル 津市大門7-15  
 事務所/津市大門10-7  
 ピッチャーズビル2階  
 TEL 225-2373 FAX 213-6175

会長/竹内 敏明  
 幹事/岡部 宏司  
 E-mail: src.tsu@dream.ocn.ne.jp  
 ホームページ: <http://tsu-minami-rc.com/>

2016~2017

## 第2477回例会 2017年5月30日(火) 天候 晴

—— 6月はロータリー親睦活動月間 ——



### 例会予定

- 6月6日(火) 外来卓話  
三重大学大学院工学研究科  
建築学専攻教授 菅原 洋一様
- 6月13日(火) 中村晶宣ガバナー補佐訪問  
会員卓話 何川 高会員
- 6月20日(火) 外来卓話 佐久間せつ子様
- 6月27日(火) 年度末夜間例会  
会長・幹事退任挨拶

### 進行担当 [中山副SAA]

国歌斉唱 ロータリーソング 奉仕の理想

### 来訪者 [竹内会長]

津RC 黒川 正機君 加瀬 久照君

### 出席報告 [川本副委員長]

5月30日 出席率 49名中 41名 83.33%  
 5月14日 修正出席率 49名中 47名 95.92%

### ニコBOX [伊藤(仁)委員]

- 黒川 正機君 (津RC) 久しぶりにメイクアップでお世話になります。
- 加瀬 久照君 (津RC) メイクアップでお世話になります。早退のお詫び、すみません。
- 竹内 敏明君 新潟津南RC記念式典に出席して下さった皆様、大変お疲れさまでした。往復の運転ありがとうございました。3日間の旅行は心に残るものになりました。
- 岡部 宏司君 新潟津南RC創立40周年記念式典に参加された皆様、お疲れ様でした。澤田会員、刀根会員、林会員には車の運転など本当にお世話になりました。本日の卓話は奥田会員です。楽しみにしています。
- 伊藤 孝行君 津南交流の皆さんご苦労様でした。

### 会長報告 [竹内会長]

◆ 私共13名は新潟津南ロータリークラブ創立40周年記念式典に出席してまいりました。5月26日金曜日午前9時3台の車に分乗し出発、午後5時津南到着、午後6時から翌日式典が控えているにもかかわらず津南ならではの山菜料理や美味しい熊汁などで大歓迎を受けました。式典当日も来賓として過分のもてなしを受け先輩方の家族間の交流など長い歴史を感じ是非とも『つなん』ロータリークラブとの交流はこれからも続けて行かねばならないと思いました。交流の歴史は私たちの30周年記念誌(田中 孝氏)、40周年記念誌(村木 会員) 50周年記念誌(新潟津南ロータリークラブ、粉川氏)に掲載されています。

### 幹事報告 [岡部幹事]

- ★ 6月ロータリーレート 1ドル¥110
- ★ 6月6日(火)例会終了後、臨時総会開催の件
- ★ 6月13日(火)新旧合同理事会開催の件
- ★ 6月27日(火)年度末夜間例会開催の件
- ★ 例会変更 4件

- 旭 晋君 津南RC40周年の式典に参加の皆様ご苦労様でした。津南RCの皆様的心暖まるおもてなしに楽しい3日間を過しました。2号車の刀根さん、千原さん、ご苦労様でした。奥田さん、卓話ご苦労様です。
- 中尾 哲也君 先日津南クラブ40周年記念行事にご参加された皆様、大変御苦労様でした。今日は奥田会員の卓話楽しみにしています。
- 村木 正二君 津南40周年では会長、幹事、参加された皆様にはお世話になりました。奥田さん、本日卓話お世話になります。
- 澤田 勝志君 奥田さん卓話楽しく聞かせて頂きます。津南に行かれた皆様お疲れ様でした。

佐々木 喬君 先週末新潟津南への遠征の皆様、ご苦勞様でした。親睦を一層深めて頂きありがとうございます。奥田会員の卓話がたのしみです。

刀根 大士君 奥田会員の卓話楽しみに拝聴致します。津南40周年記念式典にご参加の皆様お疲れ様でした。松田さん飲み過ぎに注意!!

奥田 邦雄君 入会して5回目の卓話です。拙い話ですが、お聞き下さい。

長谷川 顕一君 新潟津南RC創立40周年式典に参加して参りました。楽しい3日間でした。刀根さん快適なドライブありがとうございました。奥田会員の卓話楽しみです。

何川 高君 津南RC40周年に参加し、岡部幹事ほか同行の皆様にお世話になりました。今日は奥田会員の卓話楽しみにしております。

伊藤 歳恭君 都合で早引きさせていただきます。申し訳ありません。

今野信太郎君 奥田会員の卓話楽しみにしております。新潟津南RC40周年記念行事にご参加の皆様お疲れ様でした。

薄井 美弥君 新潟津南へお出かけの皆様、無事ご帰宅お疲れ様でした。奥田様卓話楽しく拝聴させていただきます。

家田 吉成君 ゴールドデンウィークに膝の手術を受け、順調にリハビリに取り組んでおります。皆様からたくさんお氣遣いを頂き、ありがとうございます。

千原 一典君 津南遠征の皆様お疲れ様でした。出会い、発見等楽しかったです。本日所用で中座いたします。奥田会員の卓話聞けず残念です。

奥田邦雄会員の卓話楽しみにしています。!

山口満也君、萩原 大君、樋口直人君、山本哲也君、飯田 聡君、阿部祐司君、吉村哲夫君、林 裕行君、中山 敏君、後藤修一君、今西孝彰君、山田敏郎君、伊藤 仁君、吹戸研一君、鈴木康義君、庄司正樹君、伊藤孝行君、岩井純朗君、小泉智英君、栗田 明君、宮崎吉史君、三浦敏秀君、日南田隆司君

## 会員卓話

## 文房具の話

### 奥田 邦雄 会員

元来、文人の書齋を文房といい、書齋で書に用いる用具をも文房と称しました。特に大切な筆、硯、紙、墨を文房四宝と呼びます。唐の時代になって、この四宝を文房の大切な用具として、さらに良質のものが製作されるようになりました。日本語の「文房具」というのはもともと「文房」つまり書齋に備えておく道具、といった意味の表現であり、いわゆる書いたりするのに必要な道具、紙・ノート・便箋類などを指しています。

さて世界全体では、文房具の市場は拡大傾向にあります。世界人口は増加傾向にあり、発展途上国も多く、今まで識字率が低かったり、基本的な教育すらあまり行われていなかった地域でも徐々にしっかりとした教育がおこなわれるようになると文具の需要が増えていくからです。特に筆記具メーカーは海外の売上を伸ばしていて平均すると108%ぐらいと思われま。また、文房具を扱う業界を文具業界と言い私の知る限り業界誌も5社ほどあります。

日本のメーカーの文房具は、機能性と精密さが世界的に高く評価され、ヨーロッパや北米・南米などでも広く販売されており、学校などで使用すると文房具、役所や企業では、事務用品という同様の扱いであります。そこで、あまりにも文房具という多様多様でありますので今日は筆記具に絞ってお話したいと思います。

1780年にイギリスのサミュエル・ハリソンが、鉄製のペンを完成して、つけペンが初めて世の中に出ました。1809年にイギリスのフレデリック・フォルシュが鉄製のペンをつけた胴の中にインキを溜め、今の万年筆に近いものを発明しました。しかし、ボタ落ちがして実用にはならなかったらしいです。またブラマーの特許の中には鉄ペンの着想もあり「fountain pen」の名称を初めて用い、パーカーが1832年に、自動インキ吸い取り機構を開発しました。1852年にイギリスのホウキンスがイリドスミン(とても固い金属)付の金ペンを発明しました。これでインキに錆びないペンができました。現在ではステンレスのペン先や特殊合金のペン先も出ていますが、やはり書き味は金ペンのしなやかさはに勝てないと思います。その後の1884年に、アメリカの保険外交員ルイス・ウォーターマンが、調書にインキの染みを作ってしまう、契約を取り逃がしたことをきっかけとして毛細管作用を利用してインキのボタ落ちの防止と流れが調整できる実用的な万年筆を発明したことが現在の基礎となりました。軸内に貯蔵されたインキはペン先の毛細管現象によってインキ溝を通してペン先に送り出され、ペンポイントまで運ばれ、紙の繊維に引っ張られて筆跡となります。そして使われたインキの量だけ、空気溝から空気を取り込むというバランスを保っています。万年筆も常に呼吸をしているのです。原理的には筆圧を全

くかけなくてもインキが出る万年筆は、ボールペンよりも低い筆圧で書くことが可能です。日本では万年筆が、1884年、横浜のバンダイン商会が輸入し東京・日本橋の丸善などで販売されました。「万年筆」と命名したのは、末永く使えるという意味です。日本の万年筆製造は第一次世界大戦後に盛んになり、1940年にはピークを迎え、世界第2位の輸出国となり、1950年代および2010年代には年間およそ1000万本前後が日本から輸出されています。万年筆は、低筆圧で筆記でき、ペン先の設計(13種類くらい)により様々な筆跡や書き味が得られ、本人に馴染んだ書き味になってゆきます。筆跡に余分なインクが残りやすいため、これを吸い取るブローナーが利用されることもあります。(吸取り機と吸取り紙である)インクを補充しながら長年使われるため、定期的な洗浄といったメンテナンスを必要としますが、ペン先の接触部分(ペンポイント)に耐摩耗性の高いイリドスミン合金が使用されるなど長寿命に設計され、好みのインクを入れて使用できます(現在24色くらい)。高級品を中心に、様々な工芸装飾を施したり、手作業で製造・調整されたものも少なくなく、既製品のほか特注品も作られています。メーカーや店舗によって、ペン先の調整や修理といったアフターサービスも提供されています。ペン先には14金が使われ万年筆特有の適度なしなり(弾力)を生み出します快適な筆記感と文字の抑揚や微妙なニュアンスのある独特の書き味を得られます。余談ですが、全くメンテナンスがいらぬのがガラスペンで、形や色彩が鮮やかでプロの作家の人もみえ、見た目がきれいなので文具店舗のショーケースに飾られることが多いです。欠点としてはクリップが無い為落とすと簡単に割れてしまいます。また、最近進化した文房具といえばシャープペンシル及び複合ペン(多機能筆記具)、消えるインキなどですが、シャープペンシルは、書いては消しゴムで簡単に消せる筆記具で文章、メモ、デッサン、製図などに適しています。ほとんどの小学生が鉛筆の次に手にするのはシャープペンシルだと思います。オーソドックスな商品で低価格の実用品が多いのも特徴です。芯も0.3, 0.4, 0.5, 0.7, 0.9とあり2 B~0.5は4 Hまであります芯は、おもに黒鉛と合成樹脂から焼き固められて作られ、消去性の向上や滑らかに筆記する為のオイルが含浸されています。芯の硬度は黒鉛と合成樹脂の割合や焼成の条件によって作り分けられます。黒鉛の割合を多くすると柔らかく筆跡の濃い芯に、逆に割合を少なくすると硬く筆跡の薄い芯となります色芯は黒鉛の代わりに黒鉛と同じ性質の白色潤滑性セラミックを使い、オイルの代わりに染料を溶かしたインキを含浸します。シャープ芯の長さは6 cmで1本の芯でおよそ15,000文字(30メートル書けます)ですが10 mmは残りますのでノックして出すか指で引き出してください。くるくる回って芯を研ぐ商品や芯の折れにくい機構となった商品が各メーカーから多く出ています。ぜひともお試しください。